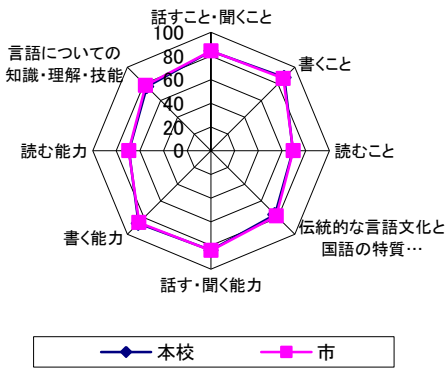


宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	84.2	84.3	81.2
	書くこと	87.5	86.4	74.0
	読むこと	69.3	69.5	64.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.3	77.9	70.6
観点別				
	話す・聞く能力	84.2	84.3	81.2
	書く能力	86.7	86.0	74.2
	読む能力	69.3	69.5	64.8
	言語についての知識・理解・技能	76.6	78.1	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
（国語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。）



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

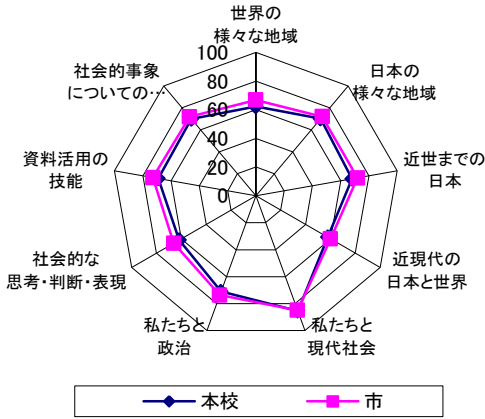
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・市平均正答率に比べて、0. 1ポイント下回った。 ○「話し合いの内容を聞き取る」という内容の問題であったが、①正確に聞き取る②話し方の工夫を聞き取る③司会者の工夫をききとることをねらいとした問題については、いずれも市の平均を上回った。 ●④司会者として適切な発言をすることができる(記述問題)については、市平均を0. 9ポイント下回った。	・聞き取る力については、十分に力がついているので、話すことの力をつけたい。そのために、自分の考えをまとめ、わかりやすく伝える練習をする必要がある。また、日常的に正しい言葉遣いをし、口語・文語ともに身に付けて行く必要がある。話し合い活動においては、司会者の発言の目安となる台本を用意し、適切な言葉遣いや話し合いのまとめ方が身に付くようにしたい。
書くこと	・市平均正答率に比べて、1. 1ポイント上回った。 ○作文の、①文字数を満たす②3段落構成で書く③自分の立場を明確にする⑤文章の内容に沿ったまとめをすることについては、市の平均を1ポイント以上上回っている。 ●④自分のとった立場の理由を書くことについては、0. 9ポイント下回った。	・具体例を根拠として文章を書く力をつけたい。根拠をあげて説得力を増した文章を書けるようにすること、自分の体験を根拠にあげられるようにすることが必要である。生活体験の少なさが現れる部分でもあるので、総合的な学習の時間などで体験したことを文章化したり、ダイアリーで日々の出来事をつづるなど、あらゆる機会を利用して生徒自身の体験談の蓄積をさせたい。
読むこと	・市平均を0. 2ポイント下回った。 ○文学作品の読み取りについては、市平均を3. 5ポイント上回った。 ●説明的文章については、市平均を3. 2ポイント下回った。	・毎日の朝読書の習慣が定着し、文学作品を、人物の心情に即して読む力がついている。一方、説明的文章については、文章の構成、展開を捉えて読むことが苦手である。主張、根拠、説明、まとめなどのそれぞれの段落の役割を意識して読むことを意識させたい。また、日頃の読書についても、読むジャンルが固定されてしまっているので、幅広い分野において読めるよう、「読書案内」などの単元を活用したい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・市平均を1. 6ポイント下回った。 ○故事成語、類義語・対義語については、市平均をやや上回った。 ●漢字の書き、助詞、敬語、古典については、市平均を大きく下回った。	・古典の基礎が身に付いていない。基本的な古文単語については、繰り返し練習し、定着を図りたい。また、歴史的仮名遣いの読み書きの問題も繰り返し解きたい。古典分野は、年間1度しか教科書で扱わないので、復習をしなければ次年度の内容が積み重なっていかない。定期的に復習問題を解く機会を設け、基礎基本を定着させたい。

宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	世界の様々な地域	62.3	66.8	54.1
	日本の様々な地域	70.1	72.1	63.4
	近世までの日本	68.1	72.0	62.0
	近現代の日本と世界	57.8	60.0	55.2
	私たちと現代社会	85.4	85.0	73.0
	私たちと政治	71.1	73.7	71.2
観点別	社会的な思考・判断・表現	61.7	66.1	52.0
	資料活用の技能	69.1	72.8	63.0
	社会的現象についての知識・理解	69.9	72.0	64.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

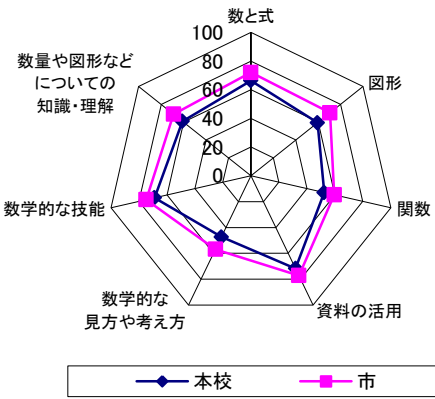
領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	世界の様々な地域	●領域では市平均を4.5%下回る。アジア州の人口分布に関する図の読み取りはさらに6.7%と大きく下回り、資料活用の技能が低い。 ●イギリスの貿易相手国の変化の理由について考えるでは、市平均を下回っているが、1.7%で昨年より向上している。社会的な思考・判断・表現を問う問題への苦手意識が薄れていると思われる。	・知識・理解の向上は見られたが、資料活用の技能は不十分である。基礎的な事項の定着を図るため、地図やグラフ、図表などの資料から読み取ったことをもとに理解させる学習を工夫する。 ・資料の種類による特徴や読み取れることを分からせ、読み取りのスキルを身に付けさせる機会を多くの場面で取り入れていく。 ・資料集や地図帳を活用しいくつかの事象を関連させて考える力をつけたい。
	日本の様々な地域	●領域では市平均を2.0%下回る。中京工業地帯についてのグラフの読み取りは7.6%と大きく下回っている。 ○主な自然災害についての知識・理解は、市平均より1.5%下回っただけで、北陸地方で見られる地場産業についての理解は、0.9%上回った。知識・理解の向上が見られた。	
歴史	近世までの日本	●領域では市平均を3.9%下回る。寺子屋の理解や、江戸時代の農業の発達の背景の説明は約10%市平均を下回っている。 ○仮名文字についての理解は8.6%上回っており、理解の定着にむらがあると思われる。	・地理的分野に比べ、歴史的分野は重要語句が分かりやすく、基礎的な知識の習得に大変よく取り組み、正答率も向上した。しかし定着にむらが見られるため、定期テストやワークなどの結果を検討し補充学習をしていきたい。 ・事象の原因や背景、他の事象への影響などを考えることは難しいという意識が先立ち、敬遠されがちである。年表を活用したり、事象のつながりを意識させる教材を活用したい。
	近現代の日本と世界	●領域では市平均を2.2%下回る。日本の産業革命が貿易に与えた影響を考えるや、朝鮮戦争の影響についての理解は約3%下回る。 ○冷たい戦争と世界の動きについての理解は市平均とほぼ同じである。3年で学習した内容で、1・2年での内容より正答率が高かった。	
公民	私たちと現代社会	○領域では市平均を0.4%上回る。対立・合意・効率・公正についての理解は、市平均を2.6%上回った。現代社会への興味・関心が高い生徒が多く、学習も意欲的だった。 ●情報化の進展に関する資料の読み取りは1.7%下回った。	・時事問題、日々のニュースに関心を持っていたため公民学習へはスムーズに取り組むことができた。興味・関心で終わらないよう、原因や理由、目的などを考えさせ、人権、法令、制度、社会の仕組みなど、基礎的な事項を正しく理解させたい。 ・自らの意見・考えをもつためにも、意見を交換することは重要である。様々な集団や方法で話し合い活動を多く取り入れたい。
	私たちと政治	●領域では市平均を2.6%下回る。国会と内閣との関係の理解が約12%、基本的人権の尊重について考えるが約8%と大きく下回った。現代政治の学習では特に法令に係わる内容は苦手意識が先立った。 ○環境アセスメントの理解は16.3%、フランス人権宣言の理解が2.1%上回った。	・憲法や法令は日常的に使われない難解な語句が多いため、苦手意識を持ちやすい。理解しやすい語句に置き換え、何度も触れさせることで、慣れさせたい。

宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	66.4	72.1	70.7
	図形	59.3	70.5	58.1
	関数	52.5	59.6	52.1
	資料の活用	71.7	77.2	64.1
観点別	数学的な見方や考え方	47.4	56.9	47.7
	数学的な技能	68.9	74.9	69.2
	数量や図形などについての知識・理解	61.0	68.9	59.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(数学では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

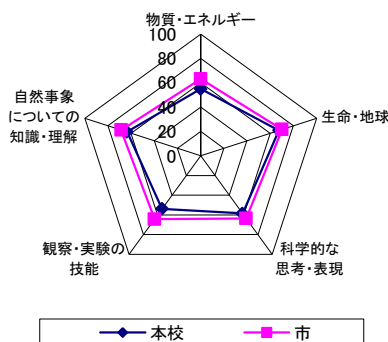
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	●市の正答率を5.7ポイント下回っている。 ・項目別でみると、乗法公式を使った因数分解の問題で市の平均を上回っているものもあった。正答率が低かったのは平方根の計算や2次方程式を解く問題であった。平方根についての理解不足が2次方程式の解き方にも影響していると考えられる。	・乗法公式を十分に理解させ、計算ミスに注意して、展開や因数分解を繰り返し練習する。また、平方根の意味を丁寧に指導し、平方根の計算も同様に反復練習する。授業の時間に計算の復習をする時間を設け、また、モジュール学習を計算力を定着させたい。
図形	●市の正答率を11.2ポイント下回っている。 ・角度を求める問題、三角形の合同条件を使った証明問題、相似な図形の性質を使って辺の長さを求める問題では、市の正答率は下回っているが、全国正答率を上回っているものもあった。数と式同様、内容を忘れてしまっている生徒や、理解が不十分な生徒もいる。	・1年時の平面図形や空間図形の内容を忘れている生徒が多い。図形に関する基本的な内容は、問題を何度も解き、パターンを覚える。また、相似な図形など複雑な図形の問題では、図を書いて丁寧に考えていく。
関数	●市の正答率を7.1ポイント下回っている。 ・比例・反比例、一次関数、2乗に比例する関数については苦手意識を持つ生徒が多い。式を求める問題、変域、グラフに関すること、グラフから読み取る問題ができていない。	・関数を理解するうえで、表やグラフはとても大切である。それぞれの関数の性質をしっかりと押さえ、問題を解く際に、表やグラフを使って考えるよう指導する。また、式を求める問題、変域とグラフ、変化の割合を求める問題も重要なので、同じ種類の問題を繰り返し解かせ、パターンを身に付ける。
資料の活用	●市の正答率を7.9ポイント下回っている。 ・確率を求める問題で、市の平均を上回っているものもあった。度数分布表の階級、階級値、相対度数などの意味を忘れてしまっている生徒が多かった。	・確率に関しては、基本的な考え方を理解している生徒は多い。さらに樹形図や表などの書き方を丁寧に指導し問題を解いていくようにする。また、資料の整理に関しては、度数分布表を用いた問題を解くことにより、知識を定着させたい。平均値、中央値、最頻値、範囲なども忘れやすいところなので何度も復習させたい。

宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	54.8	63.0	57.9
	生命・地球	67.6	70.2	65.2
観点別	科学的な思考・表現	58.5	63.5	57.5
	観察・実験の技能	53.8	64.3	61.5
	自然事象についての知識・理解	63.6	68.6	64.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

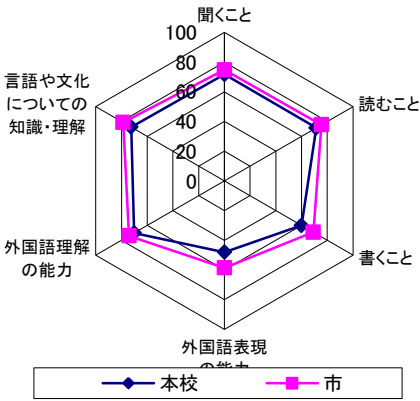
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●市の平均正答率よりも8.2ポイント低い。内容を分析してみると、おんさの共鳴現象について理解し、空気が振動を伝えていること説明する問題が市の正答率に比べて、12.7ポイント低い。全国の平均点と比較しても低く、音の伝わり方の問題を苦手としている生徒が多いようである。 ○設問ごとにみていくと、有機物・無機物の違いについては、全国および市の正答率よりも高いものがあつた。	・「音の性質」についての領域は植物の領域などとは異なり、目には見えないものを扱うため、比較的理解しにくい分野である。したがって、実験を通して音による現象を実際に経験し、実体験に基づいた理解が求められる。また、生活に身近なところに音の現象が利用されていることを紹介し、関心を持たせる工夫をしていきたい。
生命・地球	●市の平均正答率よりも2.6ポイント低い。内容を分析してみると、前線を天気図上に記号で表す問題が市の正答率に比べて、10ポイント程度低い。全国の平均と比較すると、やや低く、資料を読み取って考察する問題を苦手としている生徒が多いようである。 ○設問ごとにみていくと、被子植物と裸子植物の分類や、シダ植物とコケ植物に共通する特徴、胚の成長などでは、全国および市の正答率よりも高いものがあつた。	・普段の授業の中で、新聞の天気図や気象庁から出された過去の天気データなどを多く用いて、天気図記号を使った実習の時間を多く設ける必要がある。 ・考察する力を伸ばしていくために、今後はさらに単元末テストや定期テストなどで、理由を考えるような問題を多く出題していく。

宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	71.7	74.8	66.0
	読むこと	71.4	75.5	66.9
	書くこと	59.9	69.1	64.8
観点別	外国語表現の能力	48.0	58.5	53.9
	外国語理解の能力	70.1	74.1	65.7
	言語や文化についての知識・理解	72.5	78.8	71.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	●市の正答率を3.1ポイント下回っている。昨年度は3.3ポイント下回っており、ほぼ同じである。絵を見て内容を理解する問題は市の正答率を超えているものもある。しかし、対話文を聞き、英語で答える問題になると大きく正答率が下回っている。	・対話文を聞いての応答を苦手としているので、英語で聞かれて英語で答える活動や、場面を設定して会話をする活動を増やしていく。
読むこと	●市の正答率を4.1ポイント下回っている。昨年度は10.4ポイントと大きく下回っていたので、大幅な改善が見られた。その中でも、対話の流れとグラフを使って読み取る問題が苦手である。	・長文の読み取りを苦手としているので、授業中に大まかな意味を取りながら読む練習を増やしていく。また、英問英答を苦手としているので練習する機会を毎单元ごとに設定していく。
書くこと	●市の正答率を9.2ポイント下回っており、昨年度の13.6ポイントと比べると改善が見られた。その中でも、特に場面に応じて書く英作文を苦手としている。	・書くことの中でも、特に場面に応じて書く英作文を苦手としている。今後は与えられた場面にふさわしい英文を書く練習をしていきたい。